

官民連携データプラットフォーム運営に向けた準備会 施設系混雑ワーキンググループ(第2回) 議事概要

日時: 令和2年9月30日(水)午後6時から午後7時(WEB 開催)

参加者: 43 者(民間企業、自治体等)

(概要)

- ・第1回施設系混雑ワーキンググループの振り返り、アンケートによる質問への回答、ファーストステップにおける運用ガイドラインの提示(事務局資料をもとに説明)
- ・発展的な混雑データ活用に向けたテーマ設定について議論

(要旨)

ファーストステップにおける運用ガイドラインについて

○混雑の定義

今回非常にベーシックなところからスタートするにあたり、今後この領域で活動されている企業様にご参画頂くので、現時点は一旦定めずに、国の動向とも連携し、これから議論を深めていきたい。(東京都)

施設内の確認できているユニークユーザー数の合計を分子、施設の定員を分母とするというやり方や、定員がない施設については、定員をどのように定義するか難しい。飲食店であれば席数が決まっており、それを定員とすることができるが、施設の定員の定義はあまり議論をされているところは少ないのではないかと。(参加企業)

○表示方法

表示方法あるいはデータの使い方は、利用者側に可能な限り自由度を持たせ、データ利用各社の表示方法に委ねる形でスタートを切る。その上で、利用者、都民の方々の利便性の観点から、推奨表示はWGの中でも定めていきたい。(東京都)

混雑率を受け取るユーザー側がどのように感じるかを考慮するとよい。日本民営鉄道協会が出している鉄道の乗車率は、乗客皆が座席に着ける状態が100%とされ、250%まで定義されている。これはユーザーが体感する混雑を、ユーザー側の視点に立って表記しているため。単純にパーセンテージだけを定義するのではなく、それを受け取るユーザーのユーザー目線に立った定義に落とし込む必要がある。(参加企業)

情報強者の方、情報弱者の方、それぞれいらっしゃる前提で、ユーザーファーストなサービスの提供をする上で、複雑にせず、なるべくシンプルに情報を届けることが重要。(参加企業)

○施設のカテゴリ

データ提供者とデータ利用者のニーズに合った形からスタートしたい。(東京都)

○データ形式

特定の形式は定めない形でスタートを切ろうと考えている。ただし、もちろんマシンリーダブルであることは大前提で、可能であれば JSON を推奨としたい。(東京都)

○データの更新頻度

15 分以内の情報とすることを、一旦ファーストステップとしては定めたい。厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)の例や、企業ヒアリングなどを通じておおむね 10 分程度との企業の声もある。(東京都)

○二次利用

非常にセンシティブな領域であると認識。ファーストステップでは公益性を重視し、まず混雑情報を都民にいち早くお届けすることを最初のゴールに置いていることから、地図上もしくは施設情報の一部として混雑情報表示に留めていただくことをお願いしたい。(東京都)

データ提供者側としては、データはある種企業の資産であり、収益や企業価値を上げていくために利用する性質もあるためセンシティブでもある。とはいえ、本取組においてはスピーディにデータの流通を実現することが重要であるため、基本的にはデータ提供者側で混雑の定義をある程度決めてしまって、それをシンプルにお出しする形が一番早いのではないか。(参加企業)

データ提供側と利用者側のお互いの強み、弱み、狙いが補完し合える関係の組み合わせが非常に重要。それを踏まえての利用者の指定や、利用範囲のコントロールなどが、今後の協議事項ではないか。(参加企業)

○データの保証

仲介する東京都としては、できるだけデータ提供者・利用者の要望に沿った動きをしたいが、残念ながら現実的に個別のデータの保証ができる立場にないのが実情。ただし、データ提供者の審査をすることを通じて、その部分の補完をすることを考えている。(東京都)

○その他遵守事項

データ利用者側サービスにおいて、データ提供者の混雑情報が表示される都度、データ提供者へのインターネットトラフィックを確保するための戻しリンクを設置するというのを遵守事項として定めたい。(東京都)

以上